

折々の記 No 1 3 7 : 建国奉祝祭！

(脱稿：H21.2/12)

国家危急存亡の秋に、何と無意味、不毛の議論の多いことか、日本の行く末が危ぶまれてならない。首相も墓穴を掘り、修復しようとして傷口を広げており、一方にはそれを論うことに汲々としている政権能力のない、政局のためには節操をも放擲する野党がいる。悲しいことである。自民党も末期的症状を呈してきつつあるのかも知れない。党内政局どころではない筈だ。日本の政治家の資質に疑義を感じざるを得ない。“出でよ、救国の英傑”のとの思いが日に日に強くなるのは小生のみではあるまい。

さて、昨 11 日は、戦前に言うところの四大節の一つ「紀元節」(現「建国記念の日」)であり、埼玉県隊友会秩父支部からの「建国奉祝祭」の案内状を頂いたので、どういうものか興味もあったので参加した。

### 1 奉祝祭の概要

隊友会秩父支部と宝登山神社との共催(今回で 31 回目)の由。全国でも隊友会がこのよ  
うな形で関与しているのは、この奉祝祭のみであり、稀有なケースといえよう。参加者  
は、隊友会や氏子など双方の関係者が殆どであり、一般の参加者は殆ど居ないものと見受  
けられた。

場所：宝登山神社参集殿 1 0 0 0 時

3 部構成にて実施された。

- ・ 1 部：講演会 新しい歴史教科書を作る会会長 藤岡信勝拓大教授 90 分
- ・ 2 部：祭典



- ・ 3 部：直会なおらい

### 2 四大節とは

戦前においては、2月11日は紀元節として四大節の一つとして極めて重要な国民儀  
礼であった。因みに、四大節とは、四方拝(節)(正月元旦における宮廷行事で、天皇が元  
旦の早朝に天地四方を拝する。)、紀元節(神武天皇即位の日を太陽暦に換算した日を建国  
日とした。)、天長節(天皇誕生日)及び明治節(明治天皇誕生日を明治節として制定され  
た。)を云う。

紀元節奉祝祭と同じで(?)あつて、祭典においては「雲にそびゆ 聳る高千 穂の」の歌  
詞で始まる紀元節の歌を4番まで斉唱した。幼き頃に父親から紀元節の日には学校に

集合して、紀元節の歌を歌ったものだと言ったのを思い出した。

国歌斉唱において、2回繰り返したのも初めての経験であった。最後には天皇陛下万歳を三唱して祭典は終了した。

昔ながらの儀式を遵守していることに少々の戸惑いを感じつつも、戦後の日本人が忘れていたものを、今尚脈々として受け継いでおられる方々が居られることに感嘆した。

### 3 建国記念の日

独立とか新国家建設と言うような明確な建国日を設定できない我が国においては、万世一系の天皇を戴く日本の特色から判断すれば、例えそれが神話であろうと建国記念日とすることに聊かの異議もない筈だ。明確でないから、建国記念の日などと「の」をわざわざ挿入したのだろう。

何れにしろ、国家の成立ちに思いを致し、愛国心を涵養することは重要である。国を愛するというのは、人としての自然の情である。

### 4 宝登山神社縁起

宝登山神社は、西暦110年第12代景行天皇の御代に創建された秩父3社の一であり、御祭神は、神日本磐余彦尊（神武天皇）、大山祇神、火産靈神である。宝登山は、古くは火止（ほど）山と言われていたが、後に宝登山と改称された。境内には日本武尊が身を清めたと伝えられる「玉の泉」がある。社殿は来年の創建1900年祭を控えて改装中であり、御祭神は仮殿にお移りになっておられる。山の名前の由来でもある日本武尊にまつわる由緒話しが有名であり、山頂近くには蠟梅園があり、この時期は多くのハイキング客が参詣を兼ねて訪れている。

### 5 藤岡先生講演の要点 日本の国柄と日本人

① 系図を遡ると、日本人は皆同じ先祖になるという話しをすると子供達は感動する。

② 仏教伝来に伴う国体論争 日本のなものは遵守するも進取の気風ありが美徳

③ 聖徳太子の外交 対等外交の追及、裏には冷徹な国際情勢認識あり

④ 争いごと少なしは美徳の一つ 外国と比較すれば一目瞭然

⑤ 虐殺や革命なし 平和的性向

⑥ 埋もれたる話し

・トルコ エルツール号の救助以来極めて親日的

・スラバヤ沖海戦時の駆逐艦雷の救助活動

⑦ 世界同時質問 何処に住みたいか 1850年時点

庶民であれば日本 貴族ならばイギリス “封建時代の農民は虐げられていた”との所謂貧農史観では説明し得ない。

⑧ バランス感覚が大事だ。殊更に自らを貶める必要は毛頭ない筈である。

⑨ 沖縄集団自決判決：強制性は認めずが成果、宮平新証言認めず、可笑しい論理で名誉回復の判決なし。

(了)